

事務事業マネジメントシート（20年度実績と21年度計画）

21年度予算編成後 平成 21 年 5 月 19 日 作成
20年度決算把握後 平成 21 年 5 月 20 日 作成

事務事業名		参宮線改良事業				☐ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政 策	1	人々が、安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	都市建設部	課長名	上原 哲也
	施 策	3	交通安全対策の推進			所属課	建設課	担当者名	石原 勝史
	基本事業	10	交通安全施設の整備			所属班	工務班	(内線)	2278
予算科目		会計 1	款 8	項 2	目 3	事業連番 10090	☒ 20年度で終了 ☐ 21年度から開始		成果優先度評価結果 - コスト削減優先度評価結果 -
事業期間		☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返(開始年度 年度) ☒ 期間限定複数年度 (H16 ～ H20 年度)							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)									
【事業の内容】 本路線は、まちづくり交付金事業(幾久富地区)に伴う生活道路(通学路)の役割を果たすため、市道L=585mの歩道設置及び改良を行う事業である。 【業務の流れ】 平成16年度 関係機関との協議、測量設計業務委託。平成17年度 関係機関との協議、測量設計業務委託、用地買収、道路改良工事 平成18年度～19年度 関係機関との協議、用地買収、道路改良工事。平成20年度 関係機関との協議、道路改良工事 【主な予算費目】 15:工事費、13:委託費、17,22:用地補償費									

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 関係機関との協議、道路改良工事、検査	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN)
	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) ア 用地買収面積 m ² → イ 改良延長 m
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 参宮線道路	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) ア 全改良延長 m → イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 歩道を設置することにより安全・快適に通行できるようにする。	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) ア 整備率 % → イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) 事故誘発の要因とならない道路になっている	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) ア 設置箇所数/地区からの要望箇所の内、必要と判断された箇所数×100 % → イ

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 H16 ～ H20 年度	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	6,249	20,100	21,000	11,000				総 トータル コスト (期間 限定複 数年度 のみ記 載)	56,839
			都道府県支出金	千円									64,838
			地方債	千円	7,031	23,705	35,250	12,200					
			その他	千円									
			繰入金	千円									
			一般財源	千円	2,344	7,901	11,750	4,036					21,614
	人件費	(A)事業費計		千円	15,624	51,706	68,000	27,236	0	0	0		143,291
		うち指定経費		千円									
		うち時間外、特殊勤務手当		千円									
人件費	正規職員従事人数		人	2	7	2	7				15		
	延べ業務時間		時間	784	1,138	784	753				4,274		
	(B)人件費計		千円	3,112	4,529	3,120	2,997	0	0	0	17,011		
	トータルコスト(A)+(B)		千円	18,736	56,235	71,120	30,233	0	0	0	160,302		
活動指標		アイ	m m	0 115	130 100	525 310	0 170				目 標 合 計 値 画 22 年度		
対象指標		アイ	m m	585 585	585 585	585 585							
成果指標		アイ	% %	29.9 90	47 91	100 92	76 92						
上位成果指標		アイ	% %	90 91	91 92	92 92	92 92						

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

- ① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
本路線である市道参宮線は周辺地域の重要な児童生徒の通学路であり、生活道路でもあるが、幅員も狭く歩道が無いため、児童生徒の登下校時の安全確保が問題となっており、地域住民から早急な整備求められていたため、必要性の検討の結果、平成16年度から事業開始となった。
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
変化なし。
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
歩道が出来て安全になったという意見がある。

事務事業名	参宮線改良事業	所属部	都市建設部	所属課	建設課
-------	---------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部(SEE)＊原則は20年度の後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 道路改良後は、歩道が整備されることにより、安心・安全な通行を確保することになり、道路ネットワークの充実に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 本路線は市道であり、安心かつ快適な通行を図ることは市の義務であるため妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 道路改良は、通行車両等において必要不可欠な事業であり、施行後は快適に移動できる手段として利用されるため、意図も適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 事業は完了した。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響無 ⇒【理由】21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) ☐ 影響有 ⇒【その内容】 事業は完了した。
効率性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 市道改良においては、庁舎内でも建設課のみ施工しており類似事業はない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 用地買収及び委託・工事積算においても、リサイクル法等の適用によりコスト縮減に努め経済比較を行いながら単価等の決定を行っているので余地はない。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 本事業は、積算業務等、外部に委託することで入札等に支障をきたす恐れがあるため、必要最小限度内において職員を分担している。よって正職員以外の職員は担当できない。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 地域はもとより市民の通行利用もあることから、公正であると判断できる。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	⇒ ①目的妥当性については、…。 ②有効性については、…。 ③効率性については、…。 ④公平性については、…。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善(有効性改善)

☐ 事業のやり方改善(効率性改善)

☐ 事業のやり方改善(公平性改善)

☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1)目的の直結度	4	(直結度高い 1～3 直結度中 4～6 直結度低い 7～9)
(2)貢献度	6	(貢献度高い 1～3 貢献度中 4～9 貢献度低い 10～12)